

## 平成 24 年度 第 2 回鎌倉市次世代育成支援対策協議会 会議概要報告書

日時:平成 24 年 11 月 16 日(金)

午前 10 時～11 時 30 分

会場:市役所 全員協議会室

### 次 第

開会

1. 平成 24 年度次世代育成への取組状況について
2. 子ども・子育て関連 3 法について
3. その他

### 出席者 (敬称略)

松原 康雄	(明治学院大学 教授)
菊池 順子	(鎌倉市民生委員児童委員協議会 主任児童委員)
鎌上 真樹	(かまくら子育て支援グループ懇談会 副代表)
宮内 淑江	(鎌倉市手をつなぐ育成会 理事長)
藤枝 香織	(鎌倉市保育園保護者連絡会 副会長)
田島 敏子	(鎌倉私立幼稚園父母の会連合会 役員)
吉田 真弓	(鎌倉市立小学校長会 鎌倉市立稲村ガ崎小学校校長)
秋山 定明	(鎌倉市立中学校長会 鎌倉市立深沢中学校校長)
大鐘 亜子	(鎌倉市 P T A 連絡協議会 副会長)
下山 浩子	(鎌倉市青少年指導員連絡協議会 副会長)
堀田 絵里	(市民公募委員)

### 欠席者 (敬称略)

新保 幸男	(神奈川県立保健福祉大学 教授)
矢崎 岳人	(鎌倉商工会議所 青年部会長)
平井 麻衣子	(鎌倉青年会議所 理事)
金川 剛文	(鎌倉市社会福祉協議会 常務理事)
佐藤 弘美	(鎌倉保健福祉事務所 保健福祉課長)
冨田 英雄	(鎌倉市保育会 会長)
中村 邦彦	(鎌倉私立幼稚園協会 振興部長)

庁内推進委員会委員

相澤こどもみらい部長、福谷こどもみらい部次長兼こどもみらい課長、青山文化人権推進課長、高木市民安全課長、進藤こどもみらい部次長兼保育課長、朴澤こども相談課長、能條青少年課長、安田発達支援室長、鈴木健康福祉部次長兼福祉総務課長、曾根生活福祉課長、茶木障害者福祉課長、大澤健康福祉部次長兼市民健康課長、持田保険年金課長、川合教育指導課長、河合教育センター相談指導担当担当係長（代理出席）

松原委員長・・・平成24年度第2回鎌倉市次世代育成支援対策協議会を始めさせていただきますと思います。委員の皆様には、お忙しいなか、ご出席を頂きましてありがとうございます。この協議会は、設置要綱の第6条に基づき公開となっております。本日も傍聴の方が1名ご参加いただいております。子ども子育てをめぐる様々な課題があると思います。鎌倉で次世代の保育、そしてどのように子どもたちに育ててもらおうかということ、本日も皆様の貴重なご意見をいただきながら一緒に考えていきたいと思っております。

それでは、お手元の次第に沿って進めていきます。まず事務局の方からお願いします。

事務局・・・本日はよろしくお願ひいたします。まず、矢崎委員、金川委員、佐藤委員、中村委員、からご欠席の連絡をいただいておりますことを報告いたします。（新保委員、平井委員、富田委員についても欠席を確認）

次に、10月1日付の人事異動がございました。その報告をいたします。

<事務局自己紹介>

## 次第1. 平成24年度次世代育成への取組状況について

松原委員長・・・それでは、次第1平成24年度次世代育成への取組状況について事務局から説明をお願いします。

事務局・・・<配付資料の確認及び平成24年度次世代育成への取組状況について説明>

松原委員長・・・ありがとうございました。実際の後期計画の中身も含めて、いままでの事務局の説明に、ご質問やご意見をいただきたいと思ひます。

また周知のために、鎌倉市や市民グループがこのような取り組みをされているということでしたが、実際に情報がきた、という感覚はあるのですか。

掘田委員・・・ 私は特にありませんでした。近所のお母さん方にも聞いてみたのですがあまり知らないということでした。まだ近所のお友達は、保育園に行ったりしていないので、団体に参加していないのであまり知らないという感じでした。

松原委員長・・・ 他にありませんか。

大鐘委員・・・ 先日PTA連絡協議会の方に説明に来ていただいて、その後アンケートをいただいたときに、話を伺ったところ、低学年ならわかるけれども、実際のところ、もう少し上の学年に関してはケアやお話がないので、ぴんと来ていない方が多かったです。

松原委員長・・・ 対象が割と乳幼児中心というところもありますね。

田島委員・・・ 鎌倉私立幼稚園父母の会連合会にも、先日市役所の方がいらしてご説明いただきました。幼稚園でダイジェスト版に関するアンケートをお渡しして、回収してお渡ししている最中です。昨年度はダイジェスト版の発行部数が多かったです。たとえば昨年、ハリス幼稚園は全年齢に配ってアンケートも百何部回収できたんですが、今年は予算の関係ということで数が少なかったもので、年少の子どものいる方にだけお配りしました。ダイジェスト版に関しては掲示板に掲示したので、今までよりは、知っている人が多くはなっていると思います。

資料4にあります。子育て支援センターについては、割と小さいお子さん、幼稚園に入る前の1、2歳のお子さんや、幼稚園に入っている、3歳とか4歳とかのお子さんをお持ちの方についてはよく利用されていると思います。

藤枝委員・・・ こちらの資料5は確か保育園で配られています。資料2は掲示があると思います。平日行われているものは、保育園に行っていると利用できるないので、耳にしたことはないです。

松原委員長・・・ 保育園を通じてということになるのですね。

菊池委員・・・ 個人的には、下の子が小学生ですが、小学生の親同士だとその話は出ないです。主任児童委員の子育てサロンではお見せして配っていますので、小さいお子さんをお持ちのお母さんだと話題にすることはあります。

鎌上委員・・・ わたくしたちの子育て懇談会では、担当の方が来て説明していただいているので、周知されております。

個人的には中学校と幼稚園の子どもがいますが、幼稚園については、去年は保護者全員に配布されていたのが、今年は役員会のみでの配布だったのですが、中学校のお子さんをお持ちのお母さんは、中学校の要望も書いていいのかという話もあり、中学校ではこのような話はないようなので、もう少し広げた方がいいのではないかな、と感じました。

松原委員長・・・ この間、子ども子育ての計画と次世代育成とで、次世代育成はウイングが広く高校生まで枠を広げている、という国の説明がありました。

宮内委員・・・ 鎌倉市手をつなぐ育成会は高齢の方が多く、70代の方から30代の方なので、乳幼児をお持ちの方はいません。説明に来ていただいたのですが、お嫁さんに聞いてみる、というような話になってしまって、やはり年齢的にこのダイジェスト版を見てもピンとこない方が多かったです。子育て支援センターがどこにあるかというのは70代の方にはわからないので、あまり協力はできなかつたと思います。

下山委員・・・ 鎌倉市青少年指導員連絡協議会も、手をつなぐ育成会と同じで、年代が高いので、やはり年齢的にこのきらきらプランを説明にいらしていただいてもピンとこところがあるかなと。それと同時に小学校1年生から中学生が関わりが強いのですが、そのくらい子も入ると、もっと広がるのではないかなと思っております。

堀田委員・・・ きらきらプランはあまり見たことがないですが、子育てナビきらきらは6ヶ月健診の時など袋に入っていたりしますし、市役所でも母子手帳をもらう時に見ますので、結構見る機会があります。

提案ですが、どこにも所属していないような状態だと、病院の小児科で予防接種の時などに他のお母さんたちと話したりして、待ち時間も多いため、配布までしなくても何冊か置いておいていただけると見るかなと思います。

吉田委員・・・ 稲村ガ崎小学校では、鎌倉市P T A連絡協議会の会長から今年初めて、次世代のサポートがあるという説明が、P T Aの運営委員の役員20名ほどに対してありました。パンフレットも皆さん見てください、ということで置いてあり、小さな一歩ですが、こどもみらい課がやろうとしたことは伝わったのではないかと考えています。

松原委員長・・・ 今のご発言の中で、ひとつ、幼稚園の話がありました。それから、ご提案としては、予防接種の時にきらきらプランダイジェスト版を配布できるような手段がないかということや、もうひとつは中学生世代や、子育てをしていらっしゃる方にどう周知をしていくか、ということがありました。事務局の方この3点について何かコメントをいただけますか。

事務局・・・ 1点目ですが、きらきらプランダイジェスト版の配布について、昨年度の幼稚園への配布はそれぞれの幼稚園と調整し、希望の部数を配布したところですが、今年度は父母の会連合会に出席させていただいた際に確認させていただき、予算的なことでのご相談もさせていただきましたが、全園で全ての保護者に毎年配布しなくても良いのではないかという意見を頂いたこともあり、各園の役員の方や新たに入園された方などを対象にするなど、各園ごとに対応させていただきました。

2点目の堀田委員からご提案のあった病院へのダイジェスト版の配布については、健診をしている病院については、子育てナビきらきらは配布をお願いしていますので、併せて白書やダイジェスト版についてもご協力いただけるかどうか確認したうえで対応させていただきたいと思います。

3点目の中学生世代というのは事務局では今まであまりなかった視点ですので、この視点を交えて検討させていただきたいと思います。

松原委員長・・・ 他に後期計画の推進、周知、子どもの虐待防止についてご提案があればうかがいたいと思います。

堀田委員・・・ 鎌倉きらきら白書の48ページ、まちづくり、に関してひとつ提案ですが、乳幼児を抱えていて、出かけるときの一番の懸案事項は、おむつ替えです。鎌倉は飲食店が多いので、気分転換に家の外に出るときとか、鎌倉はお宮参りに来る人も多いと思うので、たとえば、おむつ替えシートの補助とか、おむつ替えシートについては、新しいショッピング施設では、簡易な壁にはってあまり場所をとらないものがあると思います。外国では設置が義務というところもあると聞いていま

す。海外では飲食店ではきちんとついているところもある。難しいことではないです。今後飲食店を開くときはなるべく設置してくださいと、お願いするとか、補助金をつけるとか、既存のレストランにも積極的に働きかけていただけるといいと思います。

松原委員長・・・ 確かにおむつ替えについては頻繁に必要なってきますね。事務局いかがですか。

事務局・・・ おむつ替えシートについては神奈川県補助制度があったと思いますので、確認をして、周知を図りたいと思います。（平成23年度に神奈川県が「子育てを応援するまちづくり推進事業費補助金」事業（23年度で終了）を行っており、鎌倉市内では27件の交付があった、と確認しました。）

藤枝委員・・・ 48ページの舗道の整備ですが、小学生はひとりで登校をしますが、こどもだけで歩くには危険な道がたくさんあります。お母さん方に聞いてみたところ、ガードレールを設置してほしいなどの意見がありました。

公園の遊具のボルトがこわれていたり、さびて金具がとれてしまっていたりするものがあり、設置した後の管理もしっかりしていただきたいと感じました。

松原委員長・・・ 旧市街地の細い道などはなかなか通行しづらいということがありません。

こどもみらい部長・・・ 今日は通学路と公園関係の課は欠席していますので、代わりに説明させていただきます。通学路は、各学校、校長先生や教頭先生中心に通学路を確認して、危険なところから順次対応していますが、鎌倉は道路がせまくガードレールの設置ができない、道路に車が乗り入れて車庫に入れるところも多くありますので、そうした課題を解決しながらすすめていくようにしていると聞いています。次に、公園については設置した後、毎年遊具の検査をしています。今の藤枝委員のお話にあったような状況がありましたら個別にご連絡をいただいて、確認させていただきたいと思います。皆さんも公園に行かれた時に気が付かれたことがありましたら、お申し付けいただきたいと思います。鎌倉市の財政事情も非常に厳しくて、遅々として進まないというご印象もおありかと思いますが、ご意見をいただいた

時には、担当課に申し伝えて最大限対応をしていきたいと思ひます。

市民安全課長・・・道路の話ですが、スクールゾーン交通安全対策協議会がありまして、私どもで所管しています。通学路は4月～各学校の校外委員、警察、道路管理者の道路課が、実際に各通学路をまわって見ながら点検をしています。学務課がとりまとめをしており、7月ごろ学校からの要望をうけまして、ガードレールをつけてほしいという要望については道路課で、一方通行にする、信号機をつける、横断歩道をつくるなど、規制にかかわるものについては警察で、県の公安委員会の所管になります。要望を振り分けをして渡しています。どのような対応ができるかの回答を夏にかけていただいて、その回答をもとにわれわれの内部関係課、警察、県道については藤沢土木事務所も集まり、回答について検討し、もう少しなんとかならないかとか、できる限りの対応を検討します。京都や千葉の通学路で悲惨な事故が起こった関係で、通学路の安全点検については例年以上にやっけていこうと、9月の議会でも補正予算500万円の承認を得まして、いままで実施不能であった部分もさらに見直しをしてさらに改善できるように、要望どおりの対策はできないにしろ、ガードレールは道幅が狭くてできないが、歩行空間に緑色をつけるとか。今年度は来週関係機関が集まる会合がありまして、それに基づいて今年度の要望についての回答をする準備をしています。

松原委員長・・・他に何かありますか。

<意見等なし>

## 次第2 子ども・子育て関連3法について

松原委員長・・・それでは、次第2 子ども・子育て関連3法について、事務局から説明をお願いします。

事務局・・・ <子ども・子育て関連3法について説明>

松原委員長・・・今後の状況を見極めながらというのが一番難しい。丁度時期が悪い。来月選挙ですから。行政府として決めてきたことについてはある程度の一貫性が保たれると思ひますから、まったくこのスケジュールを反故にするということはないのかな、と。皆さんのご意見をうかがいた

いと思います。

田島委員・・・ ニーズ調査の仕方ですが、具体的にはどのような団体、どこまでの期間に資料配布などを行うのですか。

事務局・・・ あくまでも予定ですが、同じニーズ調査をきらきらプランの後期計画の際に行っています。その時は全市民の方を一定の条件で無作為に抽出して、郵送でやりとりをしました。国からどのくらいの時期に指針が示されるかによりますが、それと同じスケジュールになりますと、12月以降になると思います。

田島委員・・・ 無作為に選ぶという方法もあるかと思うのですが、たとえば全幼稚園、学校、教育機関、企業、イベント団体など、もう少し支援があれば面白い活動ができるのに、などと考えている団体もいると思うので、たとえば鎌倉市のホームページや広報かまくらなどで早い段階にお知らせして、早めに意見を吸い上げるのは難しいのですか。

事務局・・・ まず、国でどういった情報をニーズとしてとらえるように、という指針がでますので、どうしてもそれを待ってからということになります。ただ後期計画のときのように、もととなる意見は無作為に把握して、その後、具体的に団体の方や市民の方と職員で懇談会の形で意見でやりとりをしました。すべてアンケートではなく、いろいろなかたちで行いたいと思っています。

松原委員長・・・他、いかがでしょうか。

大鐘委員・・・ 今の幼稚園・保育園のイメージがあると思いますが、保護者としては、いまの幼稚園などに入りたいと思っても、認定子ども園になったときに変わっていくのではないかと不安に思っている方もいると思います。まだ実施されていませんが、この点に関してはどうなるのでしょうか。今の先生については、新しい施策などで替わるのか、先生方も戸惑われていると思います。そのあたりはどうでしょうか。

保育課長・・・ 冒頭委員長が言っていたように、わからない部分が多いですが、現在鎌倉市では、認定子ども園制度がすでにできています。アワーキッズという認定子ども園がすでに開所しています。幼稚園部分と保育園部門両方持ったかたちです。今後、幼稚園教諭と保育士資格、両方の



資格を得られるよう制度として考えているようです。幼稚園が今後0から2歳の乳幼児を受け入れられるよう調整していくのか。幼稚園の動向も確認していかなくてはいけないんですが、当然0～2歳の乳幼児を受け入れるにあたり、先生、受け入れ側の対応と、保護者の選択していく制度の在り方など、組み立てていく必要があると考えております。

松原委員長・・・ ここが一番わからないところですね。仮に今の政治状況がなかったということに想定しても難しい。基本的には親御さんの選択がきちんと反映されるか、必要な方が保育をきちんと受けられるよう、システムを整備していかなければなりません。他、いかがですか。

堀田委員・・・ 子ども子育て支援といったときに生む前の支援はどのくらい入っているのか。資料8ふたつ目のマルで、結婚子育ての希望がかなわない状況や、子どもが減っているのに働く親が増えている、という状況があると思います。個人的な状況も含めて、一人生んでもう一人どうするかといったときに、保育園の状況の他に、家庭の支援、企業や社会全体の支援。働き方も毎日フルタイムで通勤しなくてよいなどいろいろな状況があると思うのです。母親の高年齢化に伴って、生める体づくりや、普及啓発や教育なども大切ですし、生もうと思える、生むことができるという状況にするという、すべてをここにお願いすることではないと思うのですが、今後どのくらいの協力があるのかを教えてくださいたいです。

松原委員長・・・ おそらく今の子育てを応援するシステムを充実していくことが次のお子さんを応援する、ということになるのかと思います。また、他に資料8、女性の体づくりといったことでも応援しているのかなと思いますが、事務局なにかありますか。当然母子保健もついてきますので。

こどもみらい部長・・・ 非常に大きな課題だと認識しています。さきほど委員長に言っていたように、少なくとも子育てを楽にできる環境を作っていくことによって、次の世代ができる、という状況をどのように作っていくか。現在行政で行っているのは、児童虐待の面からみた、お母様の負担をどのようにしていくか、というような、細分化された部分ではありますが、社会でどのように子育てを自分たちもやって、次の世代につなげていくか、というのは、大きな課題として行っていきたいと思っております。

松原委員長・・・ 3回目の会議の際にはもう少し方向が見えているかと思います。

### 次第3 その他

事務局・・・ 本日の議会の会議録を皆様に送付させていただき、ご確認後ホームページで公表させていただきます。

次の会議は開催通知を送らせていただきますのでよろしくお願いいたします。

<今後のスケジュールについて説明>

松原委員長・・・ さて10時から始めて順調に終わろうとしていますが、なにか言い残されていること、この際だから課題として挙げておこうということはありませんか。

大鐘委員・・・ うちには高校生の子どもがいます、ゆとり世代ですが、子どもたち自身は、ゆとり世代ではない学年と戦わなければならない、と先生に言われたりして、プレッシャーを抱えています。今回の制度改正の子ども園がどのくらい続くのか、大人目線だけでなく、子ども目線でなにごとも発信していかなければならないと思います。

松原委員長・・・ 昨日こどもの電話相談を受けて、詳しい話はできませんが、何をしたらよいかわからないというような不安を抱えていました。大人の都合を子どもに押しつけてはいけないと思います。

宮内委員・・・ 障害児関係の団体で、のんびりスペース大船と障害児活動支援センターを行っていますが、利用者がどんどん増えています。十何人の日と、5、6人の日がありますが、今借りている場所が狭く、遊ぶ場所が狭くてかわいそうだな、と思っています。25年の4月から、児童デイに変わるということは皆さんにお知らせしましたが、少し不安があります。

なぜかという、子育てにおじいさんおばあさんがいない、どちらかが体調が悪くてそちらについていなければならない、子どもを見る人がいない、といったような緊急の場合があるので、人数が多くても引き受けざるを得ない、という状況があります。もう少し広い場所があるとよいのだけれど、なかなか見つからず、市でも探してくれてい

ますが、それに制度が替わるということで、障害者のお母さんたちは不安に思っています。

発達支援室長・・・ のんびりスペースと障害児活動支援センターについては、児童福祉法が今年度から変わり、放課後等デイサービスに移行するというところで準備を進めているところです。現在同一時間帯に5人程度で規定している状況ですが、年々利用者が増えていまして、両方とも毎日8人程度、春夏冬の休みには十何人受けざるをえない。それでも調整してその人数にしている、というのが現状です。

市でも3つ目の場所を作ろう、という実施計画はあるのですが、場所の特定ができないので進んでいないところです。放課後等デイサービスになると、利用定員を10人ずつと変えていきますので、場所は変わらないので手狭だというお話がありましたが、利用者にとっては利用しやすいかたちになると思います。国の制度に則っていきますので、若干利用料はかかりますけれども、いまより負担が減っていく、事業者の方も、ある程度収入が安定的に入っていく制度になっています。どちらにしても障害のあるお子様たちの放課後の課題については、市としても、子どもたちの利用状況をみながら着実に推進してまいりたい、と考えているところです。

松原委員長・・・ 3か所目も含めて考えているということでしたね。他になにかありますか。

鎌上委員・・・ 子育て懇談会でもよく話題になる、居場所づくりについて、年齢によって違ってきます。乳幼児でしたらお母さんと遊べる場所、小学生だったらボール遊びができる場所、中高生だったら友達としゃべれる場所がほしい、などをよく聞きます。そういった居場所づくりをしていきたい、と思います。

松原委員長・・・ 今回はこれをもって終了となります。事務局、何かありますか。

事務局・・・ 本日は長い間ありがとうございました。これをもちまして、第2回次世代育成支援対策協議会は終了とさせていただきます。ありがとうございました。